

がん超早期発見「リキッドバイオプシー」

事業化へ開発支援

沖縄公庫 ジェノダイブに200万円



沖縄振興開発金融公庫は

22日、うるま市で研究開発を行うバイオベンチャーのジェノダイブファーマ（神奈川、猪子英俊社長）への2千万円の資本性ローンの融資を発表した。超早期のがん診断検査法「Liquid Biopsy（リキッドバイオプシー）」の沖縄での事業化に向けた研究

資本性ローンの発行を発表したジェノダイブファーマの猪子英俊社長（中央）、沖縄振興開発金融公庫中部支店の仲間秀貴業務第一課長（左から2人目）ら。22日、那覇市の沖縄公庫本店

開発を支援する。

リキッドバイオプシー技術は、血液中に漏れ出したがん細胞由来のDNAを検出し、がんの早期発見につながる診断法。自覚症状がない発症前でもがんの有無を診断でき、血液を採取するだけの検査のため肉体の負担が少ない利点がある。

東海大医学部名誉教授で分子生物学解析の権威である猪子社長は「血中のがん遺伝子の濃度が0・1％程度の低さでも、効率良く検出できる高精度の技術があ

る。琉大医学部など県内医療機関と連携して臨床研究を進めている」と述べた。

同社は2002年に設立された東海大発のベンチャー企業で、17年7月にうるま市の沖縄ライフサイエンス研究センターに入居して沖縄支店を開設した。

医療機関の検診時に血液を採取してがん診断する事業モデルで、2年以内の事業化を目指している。細谷繁最高財務責任者は「沖縄でしか受けられないサービースとして海外の富裕層向けの医療ツーリズムにつなげられる」と説明した。



ゲノム解析 200万円融資

沖縄 ジェノダイブファーマ社へ 公庫

沖縄振興開発金融公庫（川上
上好久理事長）は22日、ヒト
ゲノムの解析や診断技術の開
発を手掛ける「ジェノダイブ

ファーマ」（神奈川県、猪子
英俊社長）に対し、無担保無
保証で自己資本とみなすこと
ができる資本性ローンを適用

し、2千万円を融資したと発
表した。
同社はうるま市の沖縄ライ
フサイエンス研究センター

で、採血による遺伝子検査で
早期にガンを発見する「リキ
ッドバイオプシー」と呼ばれ
る技術を研究・開発してい
る。

高速度でDNA解析ができ
る次世代シーケンサーを使
い、血中のがん細胞由来のD
NAを早期検知する技術で、
体への負担が少ないのが特
徴。

県内で実施される検診や、
増加するインバウンド（外国
客）向けの医療ツーリズムで
の活用を想定し、1年以内の
実用化を目指す。

猪子社長＝写真中央＝は
「がんを発症する前の段階で
DNAを検知できる高精度の
技術を開発したい。発症を未
然に防ぐことにより、健康寿
命を延ばすことができる」と
意義を語った。

同公庫中部支店業務第一課
の仲間秀貴課長は「事業化に
向け、県内の医療・研究機関
やヘルスケア関連事業者と連
携することで、医療サービスの
多様化と周辺ビジネスの創
出が期待される」と話した。